



# Shintoshin Weekly

〒160-0023 新宿区西新宿2-7-2 ハイアットリージェンシー 東京11階

TEL : 03-3340-3555 FAX : 03-3340-3554

HP : <http://www.tokyo-shintoshin-rc.org> E-mail : shintoshin-rc@par.odn.ne.jp

会長 大瀧一喜 幹事 佐々木 智 創立 : 1988年9月21日

## 「第3回クラブ協議会②」

### 職業奉仕委員会委員長 児玉 譲

この時期だからこそ、職業奉仕を見つめたいと思いました。廣畑富雄著「ロータリーの心と原点」によりますと、「私個人のロータリーライフを振り返れば、私が世の中に一番貢献できるのは何か、それは自分の職業を通じてだ、と思っています。人の時間には限りがある、職業を通じた貢献が、一番大きいと思っています。」更に、「・・・ロータリーには社会的に影響の大きい方が大勢いらっしゃる。その方々が、職業を通じた貢献をより考えて下されば、・・・今の閉塞感のある日本も、もっと良くなるのではないかと、と思っています。」

心静かに過ごす計画でしたが、この時期でも可能な方は外に出ましようという趣旨で、職場見学だけ企画しました。産廃事業なのに環境保全に大貢献している職場があります。今期ギリギリですが、宜しくお願い致します。



### 社会奉仕委員会委員長 和田 佳久

本年度に予定していた地区補助金事業「ブラインドサッカー障がい者観戦支援プロジェクト」ですが、コロナウイルスの関係で、試合が全て無観客開催となっており、事業の見直しが必要となりました。

クラブとしてできる奉仕活動は限られていますが、会員個人の「気づき」を大切に、個人でできる社会奉仕活動も考えていきましょう。



### 国際奉仕委員会委員長 高橋 一博

国際奉仕が目的の委員会ですが、コロナ禍の最中で上半期は何も出来ませんでした。

最大のイベントとして毎年国際大会が開催されますが、昨年のハワイ大会はズームでの開催となり盛り上がりません。今年は台湾で国際大会でしたが、コロナ禍によりバーチャルにて開催が決定されました。2年続けての国際大会は、残念としか言いようが無いです。

委員会としては活動の予定は有りましたが恐らく出来ませんでしょう。

唯一、ネパールの友好クラブに井戸掘りの追加事業計画を依頼しております。

これが今年度内に出来れば上出来かと考えております、我慢の時期、忍耐強く下半期を過ごしたいと思います。



### 青少年奉仕委員会委員長 柁野 慶太

青少年奉仕委員会の前半の活動としては、青少年交換の留学生受け入れを予定していましたが、この事業自体が中止になり留学生の来日も叶いませんでした。

後半には、我がクラブ自慢の事業「防災と音楽の集い」を予定しています。

コロナ禍とは言え、災害は待ってくれません。最後まで、出来る形の開催を考えたいと思います。



第1483回例会 2021年6月2日（水）

「第3回クラブ協議会②」

職業奉仕・社会奉仕・国際奉仕

青少年奉仕・ブランディング委員会 各委員長

次回のプログラム

第1484回例会 2021年6月23日（水）

「今期一年を振り返って」

**ブランディング委員会委員長 本多 良美**

今期は、コロナの影響で委員会を開催することができませんでした。

今後も6月までの間に委員会の開催は厳しいと思われますので、今季のブランディング委員会は実質、休眠状態のまま次年度の佐々木委員長に引き継ぐ形となります。

過去のブランディング委員会の議論の中で明確なのは、ロータリークラブの魅力および価値の大きな部分は、そこに集う仲間の存在にあります。経済的ステータス、社会的ステータス、また、仕事や事業に対する取り組みや価値観が共通する仲間が、そこに集うことでロータリークラブの付加価値が形成されています。

クラブの更なる発展を考えると、我々が議論しなくてはならない一つの重要な項目は、「排他性」です。

一般の幅広い層の方々が入会してくる会ではなく、一部の特定の層、特定のドメインに存在する人たちがそこに集うので、クラブの価値が生まれます。例えば、どのようにして社会に貢献するのか、自分たちの会社や組織の社会的価値をいかに高めるのか、そんな議論に共感を持つことができ、食事、ワイン、旅行、ゴルフ、資産運用、等々、そんな共通の話題で時間を共有することができる仲間。

そんな仲間の存在が我々のクラブの価値を創っています。

R I は、入会の垣根をどんどん低くして数を集める方向に傾斜していますが、これは、ロータリークラブの一般化、大衆化を招き、結果としてロータリークラブの存続の危機を招くものと思います。R I が進もうとしている方向性に大きな危機感を感じております。

少なくとも、新都心クラブにおいては、次年度の佐々木委員長のもと、活発な議論がなされ、クラブがより良い方向に進み、クラブの付加価値が向上するよう進んでいってくれることを節に願うばかりです。

